

(4) 駅前広場計画

1 JR高槻駅北側駅前広場の課題整理

(1) 駅前広場の現況(平成元年12月都市計画変更)

面積

6,700㎡(うち6,000㎡が平成16年度に整備済み)

特徴

交通空間を「市営バスのターミナル機能」と「タクシー・一般車等のターミナル機能」に分離

(2) 現状での課題

環境空間となる隅きり部分700㎡が未整備

高速バスの乗降場所

タクシー待機スペース

2 駅前広場の検討

	区画整理・再開発 一体的施行案	区画整理単独案
駅前広場の面積	約1000㎡増加	現状維持
交通処理機能	現状より改善	現状維持
高速バス乗降場所	1箇所新設	1箇所新設
一般車・タクシー待機場所	各数台増加	ほぼ現状維持
環境機能	現状より改善	現状維持

駅前広場のイメージパース

区画整理・再開発一体的施行案



区画整理事業単独案



(5) 駅利用者動線計画

現状

JR 高槻駅乗降客数：約 123 千人 / 日（平成 16 年度）

課題

- ・ 京都市行きプラットフォームの狭小問題
- ・ JR 高槻駅北東地区市街地整備事業による駅利用者増への対応

取り組み方針

- ・ 当該事業にあわせて課題解決が図れるよう取り組む。
- ・ 鉄道駅総合改善事業等の活用を前提に、JR に積極的に働きかけを行う。
- ・ 総合市民交流センターなど駅南側の活性化にも資するよう検討する。
- ・ 事業者や関西大学とも協力しながら課題解決に向けて取り組む。

以上を踏まえ、早期に西日本旅客鉄道株等と検討会議を立ち上げる。

(5) - 1 J R 高槻駅及び駅周辺のあり方に関する検討会議(案)

1 検討会議の目的

J R 高槻駅周辺で都市再生特別措置法に規定する都市再生緊急整備地域内の民間プロジェクトを核として関西大学新キャンパス構想や大阪医科大学キャンパス整備を含め都市機能の充実を図る予定である。

そこで民間プロジェクト等と J R 高槻駅周辺との整備にかかる一体的な相乗効果を目指し、J R 高槻駅及び駅周辺のあり方について検討することを目的として「J R 高槻駅及び駅周辺のあり方に関する検討会議」を設置する。

2 検討会議の構成

- (1) 検討会構成員：J R 西日本、大阪府、高槻市の関係職員
- (2) その他：関西大学、準備会等については必要に応じ参加

3 検討会議の発足時期

平成 1 8 年度のできるだけ早い段階に立ち上げ

4 検討会議の所掌事務

- (1) J R 高槻駅及び駅周辺のあり方整理
- (2) 事業手法の検討

5 検討目標

関西大学新キャンパス整備や J R 高槻駅北東地区市街地整備等のスケジュールを視野に検討を進める。

(6) 土地利用について						
1 基本方針						
「高槻市の玄関口にふさわしい土地利用：文教、商業、業務、交流機能等を導入」						
2 踏まえるべき内容						
(1) 大阪府用途指定基準						
(2) 上位計画						
・本市の顔になる都心地区として、都市機能のさらなる集積と高度化を図る。						
・商業・業務機能の高度な集積を促進						
・都市拠点において民間活力などにより都市機能の充実強化を図る						
・周囲の景観や環境に配慮						
(3) 地域貢献、都市貢献						
(4) 議会や市民等の理解						
3 検討状況						
	区画整理・再開発一体的施行案			区画整理単独案		
区域	Aエリア	Bエリア	Cエリア	Aエリア	Bエリア	Cエリア
用途地域	商業地域	商業地域	近隣商業地域	商業地域	商業地域	近隣商業地域
基準建蔽率	80%	80%	60%	80%	80%	60%
基準容積率	600%	400%	300%	400%	400%	300%
その他 主な都市計画	地区計画 (壁面の位置、高さ、形態・色彩・意匠等)			地区計画 (壁面の位置、高さ、形態・色彩・意匠等)		
	高度利用地区	-	特別用途地区 (文教地区)	-	-	特別用途地区 (文教地区)
参考	J R 高槻駅北地区市街地再開発事業区域：基準容積率600%、高度利用地区（容積率700%） J R 高槻駅南地区市街地再開発事業区域：基準容積率600%、高度利用地区（容積率600%）					